

令和5年度 第1回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和5年5月23日（火）10:00～11:30
場 所	第一委員会室
参 集 者	委 員／中條庸右、齋藤 隆、堀 俊一、田中 学、金子 尚、 進藤和真、大滝美樹、穂積 祥 欠 席／齋藤 勉 酒田市／鈴木教育長、池田教育次長、佐藤教育次長、土門課長補佐、 高橋主査兼係長、乙坂係長
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会委員名簿 ・ 資料1 令和4年度の事業評価・令和5年度の事業概要について ・ 資料2 酒田市スポーツ推進計画の中間見直しについて ・ 資料3 令和4年度スポーツ振興課所管施設利用状況について ・ 資料4 令和4年度「酒田市のスポーツの推進に関する 市民アンケート調査」の概要 ・ 資料5 中学校運動部活動の地域移行について

1. 開 会（略）

【委嘱状の交付】

- ・感染症対策と時間の有効活用という観点から、各委員の手元に置くことで交付に代える。

2. あいさつ（教育長）

- ・ただいま、「酒田市スポーツ推進審議会委員」の委嘱状を交付させていただいたが、委員の皆さまにおかれては、今後、本市のスポーツ振興にお力添えを賜りたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
- ・3月には15周年を迎えた酒田リトルシニアが全国大会へ出場し県勢初の1勝をあげたり、4月に入ってからアランマーレがV1昇格を決めたりと、酒田のまちににぎわいと活気が戻ってきた。
- ・本日の第1回審議会に際しては、皆さまからそれぞれの立場での意見を頂戴したいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

【事務局より会議の成立について報告】

- ・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数9名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。

【会長・副会長の選任】

○（委員）事務局案はあるか。

⇒事務局案提示 ⇒ 異議なし

◎会長／中條庸右 委員（酒田市体育振興会会長）

○副会長／齋藤 隆 委員（酒田市スポーツ協会会長）

【会長・副会長あいさつ】

【委員自己紹介、職員自己紹介】

3. 協議（進行：会7長）

【審議会の持ち方について】（事務局説明）

- ・ 審議会は年3回開催する。
- ・ 本日1回目の審議会では、平成31年3月に策定した酒田市スポーツ推進計画に基づいて4つの目標に分けて資料を作成しているので、令和4年度に事業がどのように実施できたか、また今年度の事業の取組み状況についてご意見をいただきたい。
- ・ 2回目の審議会は9月頃の開催を予定しており、皆様の意見を次年度予算に反映できるよう内容をまとめていきたいと考えている。
- ・ 3回目の審議会は2月頃の開催を予定しており、今年度の取組みと、次年度の取組みについて報告していきたいと考えている。

（1）令和4年度の事業評価について

（2）令和5年度の事業概要について

<基本目標1 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進【資料1-1】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）「図書館利用者は運動実施率が低いと言われている。」と書いてあるが、日本スポーツ振興センターの資料を見ると、図書館利用者の8割は、スポーツの実施について前向きであると載っていた。逆に、スポーツ実施者は図書館利用が少ないというデータも載っていた。私は、そこに注目する必要があると考える。体育や文化施設の中で、例えば血圧測定を行うなど、関連して何かできるものがあると思うので、取組みを検討いただければありがたい。
 - （委員）ミライニでのニュースポーツ体験会は今年も6月からスタートする。前年度はスポーツ推進委員会の指導普及部会が担当して行ったが、今年度は会員全体に声掛けをして、地区割りで行う予定である。1年間を通して計画しているので、時間があればおいでいただきたい。
 - （委員）東北公益文科大学と連携した事業は、とても良い事業。地域にある大学だし、大学生と小学生が交流して、鬼ごっこ事業を通じて運動する楽しさを感じる時間を持たせているが、これが少しずつ広がっていくと、もっと良い事業になっていくと感じている。
 - （委員）鬼ごっこ事業について、昨年来、大分好評だということで、ありがたい事業と先生方の声もよく聞く。今年度の学校側の希望を取りまとめ中だと思うが、状況について分かれば教えていただきたい。
- ⇒4月に入ってから市内各小学校へ本調査を実施して結果を取りまとめたところ。実施を希望する学校が13校ほどあったと記憶している。昨年度、モデル校として実施した学校が3校。協力をいただいたのは女子サッカー部のほか、女子バレー部、男子バレーの3クラブである。今後の進め方としては、監督の先生方へ本調査の結果を伝えながら、話をしていきたいと考えている。また、事業実施を希望する小学校が多いことから、地域共創センターを通じて一般の学生にも募集をかけて、なるべく多くの小学校に大学生を派遣できるように協議を進めていきたいと考えている。

<基本目標2 感動と活力に満ちた競技スポーツの推進【資料1-2】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）先日、鶴岡市において旧姓 池田久美子さんが、小学校の先生方を対象に陸上の基本を教える講習会を実施したという新聞報道を見た。専門的な方から、小学校の先生方が指導を受ける機会は非常に良いものだと思う。本市では水泳や陸上に限らず、何かそのような計画はあるか。
- ⇒本市では県の補助事業を活用して、小学校では陸上、中学校では武道について地域の専門家から直接指導を受けられる機会を子ども達に提供している。子ども達と一緒に先生方も指導していただいていると認識している。

＜基本目標 3 スポーツによる賑わいとまちづくりの推進【資料 1-3】＞

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）つや姫マラソンのところに、「東京マラソン 2023 との一般提携大会」とあるが、どういう内容なのか説明をお願いしたい。また、最終的には県外参加者の割合とか、規模として令和 11 年の交流人口の目標数値である 1,600 人を当面の目標としていくのか。
- ⇒一般提携大会についてということだが、第8回大会までは準エリート提携大会という位置付けだった。東京マラソンで定めた基準タイムを超えた選手（上限25名）を推薦できるというものだった。県内だとつや姫マラソンと高畠だけが準エリート提携大会だったと思う。参加者が固定化されるということで、東京マラソン側で色々な方から大会に参加してもらい、大会を楽しんでもらえるよう、コンセプトが変わってきたことで、準エリートから一般提携に変わった経緯がある。一般提携ということで、つや姫マラソンでは昨年第11回大会からハーフの部で完走者の中から抽選で3名の方を推薦している。
- ⇒目標人数ということだったが、コロナ禍前であれば、2,000人近くの方から参加をいただいていたので、まずは2,000人を目標にしていきたいと考えている。そのためには、おもてなしを充実した形で大会をPRして参加者から大会を選んでいただくことが大切だと思う。また、県外ランナーの割合ということだが、昨年大会も大体半分ぐらいの方が県外・市外から参加いただいた。今年度は新たに、ランネットという国内最大のマラソンのエントリーサイトで、エントリースタートから10日間限定でバナー広告を掲載したところである。募集締め切りまでに申し込み状況等を見ながら、再度、広告を掲載してPRするか検討していきたいと考えている。
- ⇒マラソン大会については、開催日がやはり日曜日と決まっているのでスポーツの秋（10月）に行う大会となると、選手の奪い合いになっている感じを受ける。そういう意味からも、酒田らしい魅力ということで、今回はラーメンの提供など、特色のある大会としてPRしていくことが大切だと考えている。
- （委員）県外の参加者の話があったが、県内、市内の方々の参加率というのは減っていくものなのか。地元では、人数が集まらなくてやっぱり県外に頼らなくてはいけないのか。
- ⇒コロナ禍前は参加料が4,000円だった。コロナ禍になり対策費用等を盛り込み、参加料を6,000円にアップしたことも市内参加者が減少している要因と考えている。日常で市内コースを走れるランナーが6,000円の参加料を支払ってまで走らなくても良い、という声も聞こえてくる。来年度大会では、可能な限り経費削減をして参加料の値下げを検討していきたいと考えている。
- （委員）スポーツには、資料に書いてある通り「する」「みる」「ささえる」と色々な関わり方があるのかなと考えていた。「みる」ではアランマーレのパブリックビューイングだ

とか、「ささえる」という意味では市スポーツボランティア会を立ち上げたなど、こういったところにもスポットを当てているというのがとても良いなと思っていた。今年もスポーツボランティア会の会員募集は引き続きしていくのだろうと思いつつも、実際のくらの人が登録されていて、手始めに、つや姫マラソンから始めて、これからどのような形に広げてく計画とか、思いがあるのかお聞きしたい。

⇒スポーツボランティア会の会員については、当初、スポーツ推進委員のOB・OGの方々を中心に声掛けをさせていただいて、また広報に募集記事を掲載して現在21名の会員がいる。今年度の活動としては、県縦断駅伝の酒田中継所の運営のサポートということで、選手の休憩所の設営や、選手が通過する際に交通誘導をしていただいた。将来的には、競技団体主催の東北・全国大会の運営の手伝いや、アランマーレのホームゲームのサポートなどができたら良いなど考えている。

<基本目標 4 安全安心なスポーツ活動のための環境整備【資料 1-4】>

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

- (委員) 市体育館が令和5年度で廃止という話があったが、11月から3月までの期間でスワンスケートリンクが運営されてきた。今後、酒田市ではそのようなスケートリンクを作る計画はあるのか。酒田は冬だと雪も降るし、風も強いし、スポーツがしにくい。スキーをするか、スケートをするか、ウィンタースポーツに力を入れていかないとスポーツ実施率はすごい下がると思う。
- ⇒スケートリンクの話は、ひとつは県への重要要望事業として、酒田市から要望をしている。県ではスケートリンク整備について検討している途中だが、それに対して、酒田市にも是非ということで手を挙げ、庄内の中でも庄内空港の近場ということで要望している。これについては、例えば飛行機に乗ってでも、フィギュアのリンクを使いたいという団体なども調査によってあるようなので、それを見越しての要望となっている。
- ⇒もうひとつは、もし、県でその要望を叶えて頂いたとしても、建設まで時間がかかり、すぐにスケートリンクが建設されるわけではないので、既存の酒田市のスポーツ施設等を使って、何とかスケートリンクを設営できないかということも併せて検討しているところである。
- (委員) 今年度は、国体記念体育館が改修で使えない状態。野球場も様々な事情により使えない状況だと思う。県大会とか東北大会等を酒田で開催するとなると非常に容易でない状態。資料を拝見したとき、令和7年度に陸上競技場の公認更新が予定されていて、そのためにトラックのレーン幅を改修する必要があると記載あるが、工事の見通しというか、方向性というか、改修のために使用できない時期が発生するのかなどお知らせいただければありがたい。
- ⇒陸上競技場のレーンの幅が1レーンで2センチから3センチ小さくなるようである。それに対応しないと公認が受けられないということ。その工事については、工事の内容でどれくらいの時間を要するのか、費用も含めて現在検討しているところである。それに伴って、使用できなくなる期間が発生する。もちろん冬は工事が実施できないので、夏から秋にかけての工事になると思うが、市陸上競技協会と相談の上で進めていきたいと思っている。
- (委員) 7年度までに完了ということか
- ⇒6年度のうちに工事をして、7年度に公認を受ける形を考えている。
- (委員) 八幡体育館について、6年度以降に既存体育館解体と改築工事を実施予定とある

が、6年度に解体となると建設するまでの間、使えない期間は大体どのぐらいになるのか。
⇒2年間ぐらいはかかると思うが、年度としての考え方はできなくて4月すぐには取り組めない。設計も来年の6月頃までで、その設計後の解体工事も6年の秋から始まるという見通しだが、そこからの2か年と考えている。

○(委員) 意見として申し上げたい。事業評価、それから今年度の事業概要について、例年この形で資料作成してきたと思う。現状評価の部分について、令和4年度やってきたことについては、大変評価できる点、次年度への課題である点というように、資料を見たときに明確に分かるような表記にした方が良いかと思う。それから、令和5年度以降の計画については、文章で記載するよりも箇条書きで、来年度に向けてはこういう事業である、とした方が見やすいし、理解できるかと思う。

○(会長) 光ヶ丘野球場照明塔の撤去工事はいつから工事に入るのか。
⇒野球場照明塔の撤去工事については、業者が決定し、これから工事に入る。先週から野球場が使えない状態。撤去工事自体も数か月かかるということと、芝も外野の照明塔撤去のため潰れてしまうこともあって、今年度のシーズンの試合では使えないと説明をしているところである。一方で、ジョイフル・スローピッチ・ソフトボールの全国大会が9月2日・3日の日程で本市で開催される関係で、その全国大会だけは開催できるようにという条件で工事業者とは話をしている。

(3) 酒田市スポーツ推進計画の中間見直しについて【資料2】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○(委員) 国では第3期スポーツ基本計画を出している。山形県だけなのか分からないが、見直しを延長するというのは少し怠慢だと感じる。中学校の部活動に理屈をつけてやらないといっても、現状は中学校の部活動だけでなく、やはり少子高齢化であるとか、大きな問題があると思う。酒田市の場合には、今後2回の審議会があるので、少しは国のスポーツ基本計画なども皆さんと一緒に勉強しながら、将来の酒田について考えていく時間があっても良いと思う。

(4) その他

●令和4年度スポーツ振興課所管施設利用状況について【資料3】

(資料に基づき、事務局説明)

●令和4年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要【資料4】

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○(委員) 先日の酒田まつりの山車行列に参加した際、子ども達の写真を撮影していた方が95歳ですごく元気だった。どこまでをスポーツというか分からないが、リュックを背負ってカメラを持って写真を撮る等、趣味とか目的があると体を動かす機会になると思った。酒田まつりで出店を見るにしても、あんなに混み合いながらも長い距離を歩かざるをえない。イベントがあると、参加しやすいこともある。酒田まつりに参加して色々考えたところである。

○(委員) 飯森山公園へ遠足に行くことがあるが、頂上までの道が結構急で若い保護者の方々も息があがる。高齢の方々はいつも登っているようで、頂上には80代の方がいて息も切らさず子ども達に声を掛けてくれる。頂上は見晴らしが良くて鳥海山が見えるのだ

が、地元でそういう場所があることを知らない方もいるのかもしれない。

- （委員）アンケート調査の結果、非常に貴重なデータだと思うし、質問項目も同じようなので、全国や他市町村との比較もできる。そこで、例えばスポーツをしている人は健康であるという相関関係みたいなものを発表すると、すごい効果があると思う。アンケートを実施した際にその辺の縦軸横軸みたいな相関みたいなものが取れないものか。相関関係というのはあんまり見たことがないので可能なものか。あくまでも意見として言わせていただければと思う。

⇒話を伺いながら考えてみたが、例えば世界保健機関の「健康」の定義というのは、心も体も健康であるという状態なので、健康を一つだけの側面にとらえるのもなかなか難しいのかなと思ったところである。毎年同じ 1,000 人を対象にアンケートをしているわけではないので、先ほどあったように定点でその経過を見るということができないように思う。

○中学校運動部活動の地域移行について【資料 5】

（資料に基づき、事務局説明）

- ・前回の本審議会時に、当初予定していた国の補助事業がなくなり、市独自予算もないことを説明した。その後、昨年度末ぎりぎりでの国の委託事業（実証事業）の実施希望調査が来て、先日、酒田市がこの事業に採択されたと連絡があった。現在、6月市議会において補正予算の案件として上程する対応をしている。
- ・補正予算が無事に成立すれば、運動部活動の地域移行に向けた実証事業の取り組みでコーディネーターの配置にまず取り組みたい。さらに、指導者の質の保障、あるいは量の確保、休日の部活動を指導していただく外部指導者の方への謝金や旅費、それから保険料などの支払いを、この事業を活用して実施したいと考えている。
- ・現在のところ、各中学校区を基本として、可能なところから可能な形で、休日の部活動の地域移行を進めようとしている。今年度は、すでに市内の3中学校区（一中、四中、東部中）において、それぞれの地域にある総合型地域スポーツクラブを母体として、この休日の部活動の地域移行を実施する体制を整えつつあるところである。
- ・残り4つの中学校においても、地域移行を進めていくことになるが、実証事業を活用してコーディネーターを配置することによって、学校と地域の関係機関の繋ぎを特に推し進めながら、教育委員会としても、休日の部活動の地域移行を後押ししていきたいと考えている。

【質疑応答】

- （委員）総合型地域スポーツクラブの立場からの意見である。先日、県の総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の総会があり出席した。そこで、県スポーツ保健課の担当者が、「どうも部活動の地域移行がイコール部活動ありきで考えられている。」と話していた。総合型としては、どうしても生涯スポーツの実施を高めるところなので、競技性を持たれてしまうと接触しにくい。その担当者が言うには、「どうも地域移行イコール部活動のみが先行してしまっている。」と話していた。総合型で、何か教室をやっているの、そこに休日に参加してもいいんだよ、というような方向性を持っていければ良いかなと話していた。
- （委員）うちの学校は総合型地域スポーツクラブをひとつの母体として、様々な各部活の状況に応じながら移行を進めていこうとしている。今は休日に部活を何とか教員の手から離してもできるような体制を組みながら、ゴールの令和7年度から先は、それこそ平日

どこまで分からないが、自分が所属している部活だけじゃないものも自由にできるとか、総合型地域スポーツクラブの理念的なところの活動もできるような体制を構築していきたいということも見据えつつ、色々な関係者の方に話をしている。一緒にたになってしまうと何が何だか分からなくなってしまうこともあって、まず土日のことを考えようということで、総合型地域スポーツクラブからも理解いただいているかと思うし、そう感じている。

- (会長) スポーツ少年団も本来はそういうもの。自分の種目以外に他の種目もさせるとか、いろんなスポーツをさせるというのが本来。今はもう勝利至上主義になってきて、練習を休みとすると保護者が「なぜ練習しないんだ。」という話になる。それが最初のスポーツ少年団の理念と全然かけ離れてきている。スポーツに親しんでもらうということで、色々な種目をさせて、そこからだんだんと種目を絞っていったという感じがあるべき姿かと思う。今はその種目の練習のみで勝負にいつてしまっている感じがする。
 - (委員) 運動部活動の地域移行等に向けた実証事業(資料5-1)の箇所で、指導者の質の保障・量の確保という説明で、外部指導員への謝金についての用途が資格の取得などという説明だったと思うが、大体どれくらいの金額を予定されているのか。資格を取得していくには、やはり費用が掛かる。例えばもらう謝金よりも、はるかに資格取得に掛かる金額が多い場合もあると思う。謝金で賄えるのであれば、多分積極的に資格取得に励むと思うが、もしマイナス分が出るとなった時に、その意味合いがどこまであるのかと思った。予算の規模感などお伺いしたい。
- ⇒具体的な数字は議会に上程する関係があるので控えさせていただきたい。想定している金額としては、少なからず赤字が出るようなことがないよう、年間通じて一人で数万円プラスアルファ程度のところを想定している。

4. その他

●酒田市体育施設整備懇談会設置要綱の廃止について

(資料に基づき、事務局説明)

- ・令和4年度に体育施設を利用する関係団体等の意見を聴取し、施設の在り方を検討するため、酒田市体育施設整備懇談会設置要綱を制定した。
- ・令和5年度に体育施設に限らず、交流観光施設や社会教育施設についても利用する関係団体等の意見を聴取し、施設の在り方を検討するための「酒田市公共施設適正化懇談会設置要綱」が制定されたことから、酒田市体育施設整備懇談会設置要綱を廃止する。

5. 閉 会(略)

以上